



- 図版(写真) 519点
- 地図 63点
- グラフ・図 144点
(グラフ39+系図14+図63+表28)
- 文字資料 74点
- 2次元コード 69点

高校日本史

日探706 B5判(257mm×182mm) 302頁 予価865円

【編者】

佐藤 信 東京大学名誉教授 高埜 利彦 学習院大学名誉教授
五味 文彦 東京大学名誉教授 鈴木 淳 東京大学教授

【著作者】

老川 慶喜 立教大学名誉教授 村 和明 東京大学准教授
大津 透 東京大学教授 山口 輝臣 東京大学教授
早乙女雅博 東京大学名誉教授 湯川 文彦 お茶の水女子大学准教授
坂上 康俊 九州大学名誉教授 吉田 伸之 東京大学名誉教授
桜井 英治 東京大学教授 渡邊 宏明 海城中学高等学校教諭
設楽 博己 東京大学名誉教授 會田 康範 学習院高等科教諭
高橋 典幸 東京大学教授 大熊 俊之 埼玉県立不動岡高等学校教諭
沼尻 晃伸 立教大学教授 多田万里子 埼玉県立熊谷西高等学校教諭
牧原 成征 東京大学教授 豊田 基裕 東京都立大江戸高等学校教諭
三枝 暁子 東京大学准教授 株式会社 山川出版社
三谷 芳幸 筑波大学准教授

message



五味文彦

(ごみふみひこ)

東京大学名誉教授

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、変異種が次々に現れる今、多くの人々はこれからの社会がどうなっていくのか、不安をおぼえているでしょう。目を向けると、社会のいろいろな動きが見えてきています。地域社会の衰退や格差社会の進行、身近な家庭・学校、社会のあり方などです。これらに立ち向かうためには、過去の歴史から学ぶことが、たいへん重要です。

先人が苦難を乗り越え、築いてきた歴史を知ること、これから生きていく上で大きな力になるはず。社会のあらゆる分野で活動してきた先人の努力を、しっかり見つめ、考えて、生きていく力を育てましょう。

この教科書では、基本となる事実を示し、その事実の背景となる時代の動きを記すようにつとめました。わかりやすい文章で、正確に事実を伝える努力をしてきました。これまでの実績に基づきつつも、それを生かして、よりよい教科書をめざし編集しました。きっと皆さまの期待にこたえるでしょう。



佐藤信

(さとうまこと)

東京大学名誉教授

今日、災害・疫病や高齢化・過疎化などの厳しい現実が課題となるなかで、持続可能で平和かつ多様な社会をめざすことが求められています。見通しのきかない状況下で、世界・日本や私たちが住む地域社会のあり方を展望する際に、先人が築いてきた歴史・文化・伝統を見ずえる「知」から学ぶことが多くあるといえます。

この教科書では、多様な歴史資料にもとづきながら、歴史の文脈をたどるとともに歴史的思考を深められるようにつとめました。

どうぞ、どの時代からでも歴史に対して疑問をもち、自ら歴史資料を確かめ、調べ、考えて、歴史をたずねてみてください。

この「日本史探究」で学んだことが、これから皆さんが生きていく上で、多様で豊かな経験にあふれた世界・日本や地域の歴史・文化をふり返り、あたらしい社会の創成をめざす際の一助となれば、うれしく思います。

豊富な材料で 楽しく学べる 生徒が読んでわかる教科書

1

要点をおさえた、わかりやすい教科書。

- 『詳説日本史』の章立てに準拠し、**内容と構成を簡潔に**工夫しました。
- 生徒が自ら読んで理解できるよう、歴史の基本的な流れを、**わかりやすい文章**で叙述しました。また、ふりがなを丁寧にふり、注も少なくし、本文の読みやすさを第一に考えました。

2

興味・関心を高める工夫と、豊富な史資料。

- 史料の現代語訳**や拡大画像などを参照できる69点の「2次元コード」。
- 史資料をもとに解釈・説明・論述するための発展的な「読みとき」。
- 生徒の**興味をひきだす**エピソードを紹介する75点の「Topic」。
- 文化財や列島の多様性など、様々な観点を提供する8点の「特集ページ」。
- 視覚的なイメージを持てる**約720点の図版**を掲載。
- 教科書の判型を大きく(**A5判→B5判**)し、図版を大きくレイアウト。

関連教材

授業準備／テスト／評価に

授業／予習・復習に

教師用指導書
授業実践編

→p.56-57

デジタル

教師用指導書
授業実践編
付属データ集

→p.58-61

教師用指導書
研究編

→p.27

準拠ノート
補助教材

→p.62-63

デジタル

デジタル
教科書

→p.66-68

目次と配当時間例

『高校日本史』は『詳説日本史』の章立てに準拠しています。

各部の最初の章は、**時代の転換**を意識した構成にしました。→p.44~45

歴史資料と各時代の展望では、多様な史資料を活用し、生徒自身が**歴史を考察する力**を養えるようにしました。
→p.46~47

独自の歴史をもつ地域や、文化財保護への関心を高める、**特集ページ**(8テーマ)を設けました。→p.52

月
時数
配当時間例

目次

第Ⅰ部 原始・古代

第1章 日本文化のあけぼの

- 1 日本文化の始まり 6
- 2 農耕の開始 11

歴史資料と原始・古代の展望

- ①古代社会と海外との交流 16
- ②木簡から古代国家をさぐる 18

第2章 古墳とヤマト政権

- 1 古墳文化の展開 20
- 2 飛鳥の朝廷 25

第3章 律令国家の形成

- 1 律令国家への道 29
- 2 平城京の時代 34
- 3 律令国家の文化 38
- 4 律令国家の変容 42

第4章 貴族政治の展開

- 1 摂関政治 48
- 2 国風文化 52
- 3 荘園の発達と武士団の成長 55

2 目次

第Ⅱ部 中世

第5章 院政と武士の進出

- 1 院政の始まり 60
- 2 院政と平氏政権 63

歴史資料と中世の展望

- 絵画から中世社会をさぐる 68

第6章 武家政権の成立

- 1 鎌倉幕府の成立と展開 72
- 2 モンゴル襲来と幕府の衰退 78
- 3 鎌倉文化 82

第7章 武家社会の成長

- 1 室町幕府の成立 86
- 2 下剋上の社会 93
- 3 室町文化 98
- 4 戦国の動乱 103

凡例

1. 年代は西暦を主とし、日本の年号は()の中に入れた。明治5年までは日本暦と西暦とは1ヵ月前後の違いがあるが、年月はすべて日本暦をもとにし、西暦に換算しなかった。たとえば天正14年12月1日は、西暦では1587年1月9日であるが、1586(天正14)年12月とした。改元のあった年は、その年の初めから新しい年号とした。たとえば慶応4年は9月8日に改元して明治元年となったが、この年のことはすべて1868(明治元年)年とした。
2. 史料引用はできるだけ必要な部分にとどめ、その際も前略・後略は特別には記さなかった。また、読みやすく書き改めたところもある。漢文・和漢漢文・和漢混漢文は、原則として読み下した。法令などの史料には、通宣、第何条にあたるかを示す数字をつけた。
3. 国名は、次のように表記する場合がある。〔日本：日 中国：中 韓国：韓 アメリカ：米 ロシア：露 イギリス：英 フランス：仏 ドイツ：独 オーストリア：奥 イタリア：伊 オランダ：蘭 ソビエト社会主義共和国連邦：ソ〕

第Ⅲ部 近世

第8章 近世の幕開け

- 1 天下人の登場 108
- 2 豊臣政権と桃山文化 112

歴史資料と近世の展望

- 朝鮮通信使 117

第9章 幕藩体制の成立と展開

- 1 江戸幕府の成立 122
- 2 江戸初期の外交と文化 128
- 3 幕政の安定 133
- 4 経済の発展 136
- 5 元禄文化 142

第10章 幕藩体制の動揺

- 1 幕政の改革と宝暦・天明期の文化 147
- 2 江戸幕府の衰退 153
- 3 化政文化 159

第Ⅳ部 近代・現代

第11章 近世から近代へ

- 1 開国とその影響 164
- 2 幕府の滅亡と新政府の発足 169

歴史資料と近代・現代の展望

- ①議会と選挙権 174
- ②生糸の生産 176

第12章 近代国家の成立

- 1 明治維新 178
- 2 立憲国家の成立 186

第13章 近代国家の展開と国際関係

- 1 大陸政策の展開 192
- 2 第一次世界大戦と日本 201
- 3 ワシントン体制 206

第14章 近代の産業と生活

- 1 近代産業の発展 212
- 2 近代の文化 218
- 3 市民生活の変容と大衆文化 223

3 目次

第15章 恐慌と第二次世界大戦

- 1 恐慌の時代 228
- 2 軍部の台頭 232
- 3 第二次世界大戦 237

第16章 現代の世界と日本

- 1 占領下の改革と主権の回復 248
- 2 55年体制と高度経済成長 259
- 3 現代の情勢 267

現代日本の課題の探究

地域社会や身のまわりから考えよう

- 274

周辺地域を学ぶ

- ①古代の南九州—隼人— 47
- ②古代の東北と奥州藤原氏 58
- ③琉球王国 106
- ④アイヌと和人 146

身近な文化財をまもり未来につなげること

- ①歴史資料としての文化財 67
- ②災害と文化財 121
- ③地域の文化財から歴史を探究しよう 162
- ④学芸員体験で歴史を語る当事者になろう 191

日本史年表

- 280

索引

- 287

古代の行政区画 表見返し

干支、時刻と方位、度量衡 表見返し裏

政党・政派の変遷 表見返し

政治・外交と、経済・社会・文化で章を分け、**流れが分かりやすい構成**にしました。

「現代日本の課題の探究」では、**身近な具体例**を取り上げて、学習のまとめをおこないます。
→p.53

学習に便利な付録として、新たに「干支、時刻と方位、度量衡」を設けました。

要点をおさえた、わかりやすい教科書

歴史の流れを理解しやすくするため、**わかりやすい文章**を心がけ、ふりがなも丁寧にふりました。
また、日本史探究で重視される、**時代の転換**を意識した記述をしています。

各章の導入には、「**章全体にわたる問い**」を設け、時代の転換を探究するための方向性を示しました。

「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」それぞれ最初の章では、生徒が時代の転換を理解し、「時代を通観する問い」を立てるための指針となるよう、まとめの問いを工夫しました。

世界と関連した年表

部扉では、**世界史の動き**と関連付けながら、時代の大きな流れを捉えられる年表を掲載しました。

時代	1600	1650	1700	1750	1800	1850
日本	(徳川幕府) (幕藩政治の成立)	(寛永) (幕藩政治の安定)	(元禄)	(宝暦・天明)	(文化)	(文政)
世界	オランダの東インド会社設立	イギリスの東インド会社設立	フランスの東インド会社設立	スペインの東インド会社設立	ポルトガルの東インド会社設立	オスマン帝国の没落

第8章 近世の幕開け

世界やアジアの交易が活発になるなか、16世紀末には日本全国を統一しようとする天下人が出現した。政治や社会のあり方も変わり、近世という新しい時代が始まったとされている。新しい時代はどのように幕を開けたのだろうか。

1 天下人の登場

16世紀なかば、ヨーロッパ人は海上航路を開いて拠点をつくり、アジアの交易ルートに参入して、日本に鉄砲やキリスト教を伝え、増産された日本の銀を求めた。国際的な交易が活発となり、外来の技術・思想にどう対応するかが、戦国大名らに問われる時代となった。以後、有力な大名が領国の統合を急速に進め、16世紀末には豊臣秀吉が全国を1つの政権のもとに統合した。秀吉は新しい支配の仕組みを築き上げると同時に、中国への侵攻を掲げて朝鮮侵略を強行し、明を中心とする東アジアの国際秩序を大きくゆがめことになる。

1530年代以降、石見銀山などで銀が大幅に増産された。中国の明は銀で税をおさめさせるようになっていたので、日本産の銀が大量に中国に流れこんだ。そのかわりに中国産の生糸などが日本にもたらされて、貿易が活発になった。ただし明は民間の貿易を認めていなかったため、取締りに対抗して武装した密貿易商人が活躍した。

一方、ヨーロッパの南西の端にあるポルトガルは、15世紀になるとアフリカへの探検をすめ、東南アジアの香辛料を求めて、15世紀末にはインドへの航路を開いた。スペインもアメリカ大陸から太平洋を横断してフィリピンへ進出した。ローマ教皇がひきいるカトリック教会も海外への布教をあと押しした。こうして、ヨーロッパを中心に世界の諸地域が広く交流する**大航海時代**が始まった。ポルトガルはインドや東南アジアに拠点を築き、1540年代になると九州各地にたどりつくようになった。そして1543(天文12)年、中国商人の船に乗ったポルトガル人が九州南方の種子島に来航し、鉄砲をもたらした。鉄砲は堺などで製造が始まり、戦国大名のあいだに急速に広まった。

1549(天文18)年、カトリック教会の改革派であるイエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが、インドや東南アジアをへて、中国人商人の船に乗り、種子島に来航し、キリスト教を伝えた。ザビエルのあとも宣教師が来航し、多くの信者(キリシタン)を獲得した。とくに九州のなかには貿易の利益を得るためにもキリスト教に入信する**シタナ大名**があらわれ、家臣や領民にもキリスト教が広まった。中国南部のマカオに進出していたポルトガル商人も中国の貿易に乗り出し、やがて長崎へ来港し、中国産生糸と日本産の絹を売買を始めた。当時、彼らを南蛮人と呼んだので、これを**南蛮貿易**という。

こうしてアジアの経済交流が活発になり、極東にある日本もその影響を受けることになった。

キリスト教の伝播 ザビエルは、鹿児島に上陸したのち、上陸したが、将軍との会見を果たすことはできず、山口に滞在後、日本を退去した。

ザビエル(神戸市立博物館蔵)

種子島銃(長さ99.8cm。鹿児島県、種子島時邦蔵)

Topic 鉄砲の伝来と普及
鉄砲の伝来や生産、普及については不明点が多い。当初、贈答品や外交の道具として使われた鉄砲だが、新兵器として認められるやいなや、戦国大名はその確保につとめた。刀鍛冶の高い技術が生かされ、伝来から半世紀のうちに全国に普及し、戦間や築城の方法にも影響をおよぼした。ただし、当時の鉄砲は射程距離も短く、効果を過大に評価することは早計である。

前年の1542(天文11)年とする



南蛮屏風 南蛮人がカピタン(船長)を中心に南蛮寺にむかう場面。寺のなかには南蛮人と日本人の妻もみえる。(部分、南蛮文化館蔵)

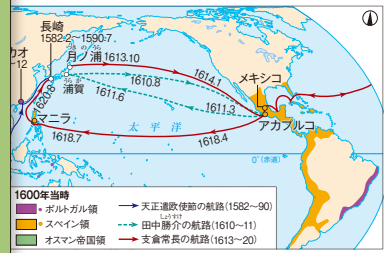
Topic 時代に翻弄(ひんろう)された天正遣欧使節
4人の少年使節はローマ教皇に歓迎され、ヨーロッパの人びとに日本の存在を広く知らせた。活版印刷機などをたずねて1590(天正18)年に帰国すると、禁教が強まっており、彼らを通商の使命が待ち受けていた。伊東マンショは布教活動をするが拠点の小倉を追われ長崎で病死。千々石ミゲルは東教し消息不明、原マルチノは国外追放。中浦ジュリアンは長崎で殉教した。

伊東マンショの肖像(イタリア、トリヴルツォ財団蔵)

ポルトガル語やスペイン語に由来する外来語は、ほかにもカタパ、ボンタ、メリヤス、テンブラ、カボチャ、カルタなどがある。

は、九州のキリシタン大名にゆかりのある少年たちをヨーロッパのローマ教皇のもとへ派遣した(天正遣欧使節)。また金属製の活字による活版印刷術も導入した。以後、キリスト教の書物が翻訳されたり、日本の古典や日本語辞書が出版されたりした(キリシタン版)。

●豊臣政権が築き上げた支配の仕組みは、どのような点で江戸時代に引きつがれてゆくのだろうか。武士・百姓・町人それぞれについて考えてみよう。
●国際交流の進展や全国統一など、どのように時代に転換したのかに着目し、近世の特徴について、中世や近代とも比較して問いを表現してみよう。



1600年当時 ●ポルトガル領 ●スペイン領 ●オスマン帝国領 ●天正遣欧使節の航路(1582-90) ●田中勝介の航路(1610-11) ●支倉常長の航路(1613-20)

16世紀の世界と日本人の往来 オスマン帝国領の広がりに、ヨーロッパ諸国は西へ目をむけた。天正遣欧使節(●p.116)は喜望峯をまわり、支倉常長はメキシコから大西洋を横断して、ヨーロッパをめざした。



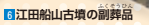
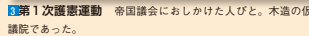
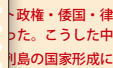
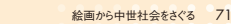
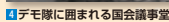
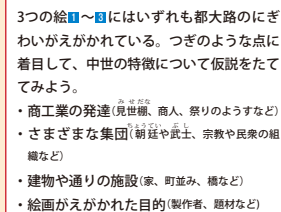
世界遺産：石見銀山遺跡とその文化的景観(国指定) 16世紀に石見銀山で銀が大増産されると、中国へ大量に流れこみ、東アジアは空前の交易ブームを迎えた。16世紀末にティエラがつくった「日本図」にも石見銀山がえがかれている(上)。下は日本銀(南蛮銀)下銀(長さ16cm)。(ともに島根県立近代史博物館蔵)

各時代に関連の深い**世界遺産**の写真を取り上げ、解説を付しました。

本文を補足する「**注**」は、必要な部分を簡潔に記しました。

各章の最後に、学習のまとめに最適な「**章のまとめの問い**」を配置しました。

「歴史資料と原始・古代の展望」「歴史資料と中世の展望」「歴史資料と近世の展望」「歴史資料と近代・現代の展望」では、生徒が様々な**史資料**から情報を読み取り、**時代の特色**について考察することで、その後の学習に**見通しをもった授業**を展開できます。



視覚的なイメージを持てる豊富な図版

約720点の豊富な図版を掲載しました。

さらに、判型を大きくしたことで（A5→B5判）、図版も見やすくなりました。



14 雨夜の宿 (鈴木春信筆) 風雨の夜、破れ傘をさし、小田原屋敷をくぐり、町屋の娘をさがす。(東京国立博物館蔵)



15 ポップンを吹く女 (喜多川歌麿筆) ガラス製の笛(ポップン)を吹く、町屋の娘をさがす。(東京国立博物館蔵)



16 三代目大谷鬼次の奴江戸兵衛 (東洲斎写楽筆) 歌舞伎「恋女房染分」のひとこま。金をうばおうと盗みかかると、(武家華公)の形相をえがく。(東京国立博物館蔵)



17 西洋婦人図 (平賀源内筆) 日本の西洋画の先駆的作品。長崎に渡来した絵を、油絵具を工夫して模写したもの。(縦41.4cm、横30.5cm。神戸市立博物館蔵)



18 十便十宜園「釣便図」(池大雅筆) 池大雅・与謝蕪村の合作になる画集の1枚。(縦・横各17.7cm。川崎歴史博物館蔵)

● 専門の画家ではない文人・学者がえがいた絵をいう。

られ、幕臣の大田南畝(蜀山人)らが活躍した。演劇では、18世紀後半から、人形浄瑠璃にかわって、江戸を中心に歌舞伎が人気を集めた。

絵画では、18世紀なかばに鈴木春信が錦絵とよばれる多色刷の版画を完成させ、浮世絵の黄金時代をむかえた。題材は美人・役者・相撲・花鳥などさまざまで、寛政期(1789～1801年)には美人画の喜多川歌麿や、大首絵の手法をもちいて役者絵をえがいた東洲斎写楽らが、すぐれた作品を生み出した。

伝統的な絵画では、円山応挙が写実を重じ、近代日本画の源流となった。また、明・清の南画から影響を受けた文人画が、池大雅・与謝蕪村らによって大成され、知識人に好まれた。写生画や文人画には西洋画の技法が取りこまれ、司馬江漢が平賀源内らに学んで銅版画を始めた。



19 雪松園屏風 (円山応挙筆) (右隻、六曲一対、各縦155.5cm、横362.0cm。三井記念美術館蔵)

図版を比較したり、情報を読みとったりしながら、思考力を高める基礎を身につけます。共通テスト対策にも、役立ちます。

2 江戸幕府の衰退

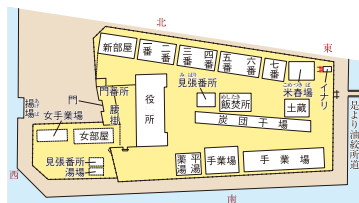
寛政の改革

天明の打ちこわしの直後、11代將軍徳川家斉の補佐として老中になったのは、白河藩主松平定信である。定信は田沼時代の政治を改め、吉宗の政治を理想として幕政改革にとりくんだ。これを寛政の改革とよぶ。

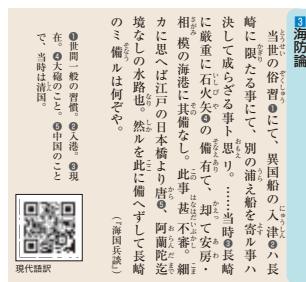
定信の施策の第1は農村を復興させることで、江戸に出稼ぎなどで一時的に居住する者には帰農をすすめた(旧里帰農令)。さらに、百姓らに荒れた耕地を耕作できる田地にもどすための資金を貸した。また、飢饉にそなえて各地に社倉・義倉をつくらせて、米穀をたくわえさせた(糶米)。

第2は都市対策で、まず物価の引下げに乗り出し、俵町令を出して支出をおさえた。旗本・御家人を救済するためには、6年以上前の借金を帳消しにするという棄捐令を出して、金融業者である札差に貸金を放棄させた。住居をもたない無宿人対策としては、石川島に人足寄場を設けて、収容した者に技術を身につけさせ職業につかせようとした。また、江戸の町人たちに町費を節約させ、節約分の7割を積立てさせ(七分積金)、それを基金として運用し、飢饉や災害時の貧民を救済するために米穀をたくわえさせた。

一方、定信は思想をきびしくとりしめし、湯島聖堂の幕府学問所では朱子学以外の講義・研究を禁じて(寛政異学の禁)、朱子学を幕府の官学と定めた。また、林子平が『海国兵談』などで海防の必要



20 人足寄場 役人のつめる役所や番所があるほかに、男女の無宿人の生活する場所(風呂など)が設けられていた。無宿人たちは炭団・絵粉(石炭)の製造や油絞りのほか、紙漉・鍛冶・木工・左官・髪結などの手業を身につけた。(『大日本近世史料 市中取締類聚』27より作成)



海防論 当時の俗習に、異国船の入津にハ長崎に限る事に、別の浦へ船を寄ル事ハ決して成らざる事思ひ。……當時ハ長崎に嚴重に石火矢の備有。却て安房・相模の海港に其備なし。此事甚不審。細かに思へば江戸の日本橋より唐阿波陀迄境なしの水路也。然るに此に備へずして長崎のミ備ルは何ぞや。(海国兵談)

代化・大衆化の動きとなっていた。

美術では、文明開化の風潮のなかで、伝統的な日本画や木彫などが一時かえりみられなくなったが、ヨーロッパで日本画が高い評価を受け、また、1880年代に国粹主義が勢いを得ると、伝統美術を復興する動きがおこった。とくにアメリカ人のフェノロサや岡倉天心の活動はめざましく、天心は東京美術学校(現在の東京芸術大学美術学部)の設立

Topic

夏目漱石の文明観

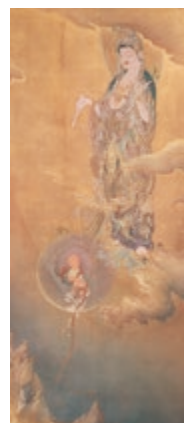
漱石は「現代日本の開化」という講演で、西洋の開化は内発的だが、明治日本の開化は外発的であらざるをえなかった、と指摘している。日本の開化を「皮相上滑りの開化」と批判するものの、列強から国を守るためには、よくないかわかっていてもこのまま上滑りに滑っていくしかない、と悲愴な決意を述べている。

11 夏目漱石 (日本近代文学館蔵)



文化史は、特集ページとせずに、本文と関連付けてレイアウトしました。

代表的な文化財の写真を大きく、豊富に掲載し、解説を付しました。



22 虎図 (橋本雅邦筆) 1895(明治28)年の内閣勸業博覧会に出品した雅邦の代表的な屏風絵。竜にむかって眼を怒らして吼える虎をえがいた部分。六曲一対。(左隻、部分。静嘉堂文庫美術館蔵)



23 虎図 (橋本雅邦筆) 1895(明治28)年の内閣勸業博覧会に出品した雅邦の代表的な屏風絵。竜にむかって眼を怒らして吼える虎をえがいた部分。六曲一対。(左隻、部分。静嘉堂文庫美術館蔵)



24 黒き猫 (菱田春草筆) 柏の幹にすわり、何かに緊張している黒猫をえがく。(部分。永青文庫蔵)



25 湖畔 (黒田清輝筆) 1897(明治30)年第2回白馬会に出品。清輝はパリに学び、明るい色調で「外光派」の指導者となった。モデルは清輝の夫人。(縦69.0cm、横84.7cm。東京国立博物館蔵)



26 海の幸 (青木繁筆) 1904(明治37)年白馬会に出品。房州布良で得たモチーフで、大漁の獲物をつつ漁師の群れをリズムカルな構図、力強いデッサンと褐色の色調でえがく。(縦70.2cm、横182.0cm。石橋財団アーティゾン美術館蔵)



27 蛙 (高橋由一筆) 幕末から洋画を学んで西洋画の開拓者となった由一は、工部美術学校教師として来日した外国人と交流して腕を磨いた。(縦140.0cm、横46.5cm。東京芸術大学蔵)

につとめ、日本画を復興した。岡倉天心はその後、日本美術院をつくり、新しい日本画の創造につとめた(国粋画)。

西洋画は、まず明治初期に工部美術学校で外国人教師が教えていたが、明治中期に、フランスに留学し印象派の画風をもたらした黒田清輝らの活動によってさかんとなった。彫刻の分野では、

様々な観点を提供する特集ページ

生徒の興味や関心を引きだす**特集ページ**を設け、主体的に学習に取り組めるよう工夫しています。

学芸員体験で歴史を語る当事者になろう

身近な文化財をまもり未来につなげる

文化財

「身近な文化財をまもり未来につなげること」では、**文化財**について、様々な観点から、文化財保護への理解を深めます。

地域を歩き、興味深い資料をみついたら、その特徴などを記録する資料調書を作成しよう。その際、博物館に行って資料調査の方法を学芸員に相談してみよう。

私たちが博物館や美術館を訪れるのは、展覧会などを見学する時が多いだろう。しかし、博物館の活動には、日頃から資料の収集や保管、調査研究などがあり、その活動をふまえたうえで展覧会がある。こうした活動を担う学芸員は、文化財となる資料を取り扱う専門家である。

博物館に収蔵されるさまざまなものが博物館資料となるためには、ものに対して学術的な調査研究をおこない、価値を見極める必要がある。学芸員が作成する資料調書に記入する項目は、対象となる資料によって異なるが、すべての項目が簡単に記入できるとは限らない。調書にはわかる範囲で資料名や計測した寸法や重量、素材や製作者、製作年代などを記入し、さらに写真や撮影し、図をつくって、特徴的な事項を記入する。

こうしてひと通り資料の概要を調査し資料調書の作成がすんだら、さらにその資料の歴史的・社会的位置などを詳細に調査することになる。その際、わからないことを少しでも明らかにしていく作業こそが、歴史研究や学芸員の仕事なのである。それを体験することは、私たち自身が他人まかせでなく、歴史の語り手になることでもある。

調査にあたっては、論文や参考図書、インターネットなどにふれる必要がある。インターネットなどにふれる方法もよく学んでおこう。

これまで歴史を学んできた経験をふまえ、私たちはどのように歴史資料と向きあうことができるだろうか。

歴史を学ぶことは過去と対話することだといわれるが、誰も過去をふたたび体験することはできない。しかし、私たちのまわりには、過去の事物が資料や記憶として残っている場合がある。こうした資料や記憶と主体的にむきあい、人類共有の財産である文化財を守り、次世代に伝えていくことが、歴史を語る当事者になることにつながるだろう。

資料調書

記入日(調査日) 年 月 日 曜日

記入者名

資料名	
よみかた	
形態・品類	
寸法・重量 (基本・重量など)	
付属品の有無	
作成者・発行情報	
所蔵者	
伝来・経緯 (この資料がどのようにしてここにあり、どのようにしてここにあり、どのようにしてここにあり)	
図・写真・スケッチ (複製可能な文字で記入する。スケッチは必ずしも必要ではないが、説明を補うことができる)	
備考	

調書の例

周辺地域を学ぶ

2

古代の東北と奥州藤原氏

ヤマト政権の支配がおよばない東北地方の人びとは、中央の政権から「蝦夷」とよばれ、異民族のようにあつかわれることもあった。

7世紀なかば以降、中央政府はたびたび東北地方に軍を送り、根拠地として城柵を設け、支配を浸透させていった。城柵は、政府を中心に外郭のなかに役所群・倉庫群をおくもので、8世紀には、陸奥国の国府としてつくられた多賀城のもとで、各地域の行政の拠点となった。政府は帰順する蝦夷を「俘囚」とよんで優遇し、その一部を諸國に移して組織する一方、反抗する蝦夷は武力でおさえつけたので、しばしば戦いがあった。桓武天皇の時代には、北上川中流域の族長阿豆流為が政府軍を大敗させる事件があったが、坂上田村麻呂の活躍もあり、中央政府による東北地方の支配はしだいにすんだ。

11世紀末、東北地方に独自の支配権をもって勢力をのびしたのが藤原清衡であった。後三年合戦後、陸奥・出羽の「俘囚の長」の地位を継承した清衡は、金や馬などの奥州の特産品や北方との交易によってえた経済力を背景に、朝廷や摂関家と良好な関係を結び、その地位を認めさせた。

清衡は白河関から津軽外ヶ浜までを支配下におき、その中間にあたる平泉に居館をかまえ、壮大な中尊寺をたてた。平泉には仏教美術や建築などの都の文化がもたらされ、中国産のすぐれた陶磁器や経典、東海地方産のやきものなども集まってきた。中尊寺金色堂内陣の螺鈿の装飾には、南島産の夜光貝がふんだんに使われている。

藤原清衡によって確立された奥州藤原氏の政治権力は、清衡の子基衡、孫の基朝と3代100年にわたって継承されたが、12世紀末、4代基衡のとき、源頼朝に攻めほろぼされた。

中尊寺金色堂内陣(若手帳)

奥州藤原氏の勢力図

周辺地域

「周辺地域を学ぶ」では、「古代の南九州—隼人—」「古代の東北と奥州藤原氏」「琉球王国」「アイヌと和人」の特色ある4地域を取り上げ、**列島の多様性**に目を向けます。

現代日本の課題の探究

日本史探究のまとめでおこなう「現代日本の課題の探究」の例として、生徒にとって**身近な例を主題に取り上げ**、「伝統や文化の継承と創造」などの課題を扱います。

現代日本の課題の探究

地域社会や身のまわりから考えよう

これまでの学習をふまえ、私たちが直面する諸課題をみつけ、資料を活用して探究しよう。ここでは、I「伝統や文化の継承と創造」、II「社会や集団と個人」、III「世界のなかの日本」について、身のまわりの具体的な例を取り上げ、主題を設定し、さまざまな資料(書籍・辞典・新聞・雑誌、インターネット、博物館、インタビューなど)を使って考察してみよう。

I 東京の祭礼—伝統や文化の継承と創造

① 資料をもとに仮説をたててみよう

神社の祭礼といえば、氏子たちが神を乗せた

神輿をかついでまわる渡御を多く目にする。

資料①は、江戸時代における江戸のおもな神社

の祭礼の形態をまとめた表である。これを見ると、

江戸幕府公認の天下祭とよばれた、日枝神社の

山王祭と神田明神の神田祭をはじめ、多くの祭

礼で神輿とともに氏子町々による山車(飾り物

をしたり太鼓を積んだりして人や牛が引く車)

と、附け祭(練物とも。はなやかな踊り舞台や曳

き物などの行列)が多く出されていることがわか

る。つまり、現在のような神輿を中心とする祭礼

とは、やや異なる形式で祭礼が展開されていた。

このことから、「地域の祭礼は、社会の変化や時

代の要請に応じて変容しながら継承されているの

ではないか」という仮説をたてることができる。

② 仮説を検証してみよう

ここでは、神田神社(神田明神)の神田祭を取り

上げ、神社祭礼の変容をとらえたい。

現在の神田祭では、5月に神社の所有する3基

の鳳輦・神輿と、途中で加わる附け祭をあわせて、

約300m、約2000人もの祭礼行列が氏子区域を1

日がかりで巡行する神幸祭がおこなわれ、その

翌日に各氏子町々の所有する神輿(町神輿)が自

分たちの町々を渡御し、神社へ参入をおこなう。

つまり、神輿が中心となっている。

① 天下祭としての神田祭

神田神社は、江戸時代

から「大己貴命」と平

島部芝崎村(現在の東京都

あった。近世以前の神田祭について記した『落穂集』には、農村の秋の収穫祭に近い祭礼がおこなわれていたことが記されており、祭礼行列などはみあたらない。

江戸幕府が開かれると、神田明神は幕府の保護

をうけるようになった。1616(元和2)年に江戸城

の表鬼門にあたる現在の湯島へ移され、江戸の

総鎮守として、江戸の庶民からも崇敬された。

江戸時代初期の神田祭について、1793(寛政5)

年に記された資料②をみると、神輿を船に乗

せる船祭りが毎年おこなわれていたことがわかる。

その後、船祭りはなくなり、1681(天和元)年以

降は町々の祭礼の負担が大いことから、日枝神

社の山王祭と交互で隔年の開催となった。

1688(元禄元)年には祭礼行列をはじめ江戸城

内に入ることとなった。神輿をはじめ、資料③の

ような氏子町々より出された山車や、資料④のよう

な附け祭、幕府が一部費用を負担した出し物行

列や余興など、大規模な祭礼行列を、将軍から

奥女中までが上覧所から見物した。

以後180年ものあいだ、三大改革による儉約を

目的とした行列の規制、幕府や町々の財政状況な

どにより、姿をかえながら、ほぼ2年に1度、定

期的におこなわれてきた。1867(慶応3)年は神輿

のみの行列で、翌年に幕府は滅亡し、天下祭とし

ての神田祭は終わった。

② 神田祭の近代化

明治時代を迎え、神田祭は東京の氏神祭礼へと

変化していくことになる。まず、1868(明治元)年、

神田明神は神田神社に社名を改めた。そして、か

つて朝敵だった平将門を祭神からはずすべきで

あるという議論がおり、将門は別殿に移される

近世初期の神田祭
祭礼は徳川家康が関東に入府したころま
では、毎年船祭りであつた。竹橋から船に神輿
を乗せて、小船町の神田屋庄右衛門といふ者の
家の前から神輿が移り上り、練り歩いた。
大田原(寛政5)武蔵(寛政5)神田神社御報告、一部
改訂

③ 氏子町々の山車のような(歌川芳員「神田祭出づくし」、1859(安政6)年、江戸東京博物館蔵)

④ 附け祭(曳き物) 大江山(寛政5)の曳き物。('神田明神祭礼図巻'、部分、江戸時代後期、神田神社蔵)

地域社会や身のまわりから考えよう 275

トータルサポート

日本史探究『高校日本史』関連教材です。
授業準備からテスト・評価まで、豊富な教材で日本史探究をトータルサポートいたします。



約13,000点の地歴コンテンツを配信

Webの社会科準備室
**山川&二宮ICT
ライブラリ**



授業準備・授業

テスト・評価

定番の補助教材

→p.34

日本史B

日本史用語集
新課程版は23年12月刊行予定

**日本史用語集
アプリ付き**

日本史総合テスト
新課程版は23年秋刊行予定

**山川一問一答
日本史**
新課程版は24年春刊行予定

ご採用特典

生徒用
電子版

先生用教材コンテンツ

教師用指導書 授業実践編 付属データ集 →p.58

PDF 教科書紙面

JPEG 地図・図表

PowerPoint 授業用スライド

PDF 高校日本史ノート

Word 本文・注・史料テキスト

Excel 問い・解答例一覧

JPEG 白地図集

Word 授業用スライド対応ワークシート

Word 準拠テスト例

Word 準拠テスト例対応ループブック

PDF 指導書紙面

Excel 年間指導計画例 評価規準例

教師用指導書 研究編 →p.27

指導者用 デジタル教科書 →p.66

準拠教材ご採用特典

PDF **Word** 高校日本史ノート

予習・授業

テスト対策・復習

生徒用教材コンテンツ

学習者用 デジタル教科書 →p.66

高校日本史 ノート →p.62

よくでる一問一答 日本史
※アプリ付き
新課程版は24年夏刊行予定

・準拠ノート紙面 **PDF** は、解答あり／解答なしの2種類をご用意いたします。
※一部を除き、許諾上の理由から写真は掲載しておりません

教師用指導書 授業実践編

日探706準拠

B5判・292頁・2色刷・付属データ集DVD-ROM付 定価22,000円（10%税込）

『高校日本史』を使った授業実践にご活用いただける材料を盛り込みました。

- ① **学習の目標** 小見出しごとに、学習の柱となるポイントをまとめて示しました。
- ② **解説** 特におさえておきたい重要な記述を解説しています。板書例・本文との対応は英字で示しています。
- ③ **史料・図版** 教科書に掲載の史料・図版について、授業に役立つ解説をしています。
- ④ **問いの解答例** 教科書の「読みとき」「Q」「章のまとめ」の問いの解答例を示しています。その他にも、適宜、発問例と解答例をプラスしています。
- ⑤ **板書例** 流れを簡潔にまとめた板書例を示しました。授業プリントの作成などにもご活用いただけます。
- ⑥ **教科書画像** 教科書を縮小して入れました。赤い英数字で解説や問いの解答例、板書例との対応も示しました。

- * **歴史資料と各時代の展望のページ**は、充実した解説を付し、生徒が資料を活用した考察・表現をしやすい授業が展開できるよう工夫しました。
- ⑦ **ねらい** 取り上げた資料を扱う「ねらい」を示しました。
- ⑧ **問いの解答例・解説** 資料を詳しく解説し、問いの解答例や、考察・表現のアプローチを示しています。その他にも、適宜、発問例と解答例をプラスしています。

第15章 恐慌と第二次世界大戦

1 恐慌の時代

金融恐慌

学習の目標

昭和初期の日本の経済恐慌の原因や状況を理解し、それがその後の日本の政治や経済、社会におよぼした影響を多角的に考察する。

解説 **A** 第一次世界大戦後の日本経済

大戦後、不況に陥っていたにもかかわらず、表面的な投資熱が続き、株価は上昇を続けていたが、その後暴落して戦後恐慌となった。また、このアメリカでも恐慌がおきて生糸の輸出も激減していた。そんな中で関東大震災がおり、日本経済へさらなる打撃を与えた。この時に銀行に残っていたが震災手形である。手形とは、一定の時期までに手形を発行した者が額面の金額を支払う義務をもつものである。手形を受け取った者はそれを銀行へ持ち込み、銀行は支払期日まで利子に相当する金額を引いた金額を支払って、その手形を買い取った。しかし、震災で手形を発行した社がなくなり、現金化できない手形が銀行に残れ、不良債権化したため、銀行の経営を圧迫した。

Qの解答例 戦後恐慌、震災恐慌により大量の不良債権をかかえた銀行の経営不安に、時の蔵相の失言もあいまって取付け騒ぎが頻発し、金融恐慌がおこった。若槻内閣は倒れ、新たに発足した田中内閣の下、3週間のモラトリアムと日銀非常貸出によって混乱は収束された。

読みときの留意点 明るさや影のぼかしから白屋であることが推測され、警官が出動し、騒動のない大行列が銀行を取り囲んでいることから現金者の切迫感が伝わってくる。

解説 **B** 金融恐慌の発生

蔵相の第1次若槻内閣の片岡謙三蔵相は、震災手形処理法案を審議している衆議院予算委員会、野党政治家からの執拗な攻撃に、東京逓辺銀行の経営ゆきづまりを失念し、中小銀行の経営不安を明らかにしてしまった。この結果、現金者は自分の銀行預金を守るために払込用紙を各銀行へ殺到し、多くの銀行が休業に追い込まれた。恐慌への対応に苦慮する若槻内閣は、戦後恐慌によって倒産した鈴木商店へ大量に融資していた台湾銀行を救済する緊急勅令案を提出したが、枢密院は了承しなかった。これは伊東友会内閣の協同外交に対して枢密院閣官の伊東巳治などが反発していたからである。万策尽きた若槻内閣は総辞職した。

解説 **C** 金融恐慌への対応

若槻内閣に代わって、立憲政友会の田中義一内閣が成立した。田中は陸軍・長州閥の重鎮であったが、原敬内閣で陸相をつとめた経緯から高橋是清に続く立憲政友会総裁に就任した。高橋はこの内閣で蔵相をつとめ、全国の銀行でモラトリアムを実施し、4月22・23両日、銀行を自主休業させ、

5

〈板書例〉

〈金融恐慌〉

(1)背景 第一次世界大戦後の日本経済 **A**

1920年 戦後恐慌

1923年 関東大震災→震災恐慌→震災手形の不良債権化

(2)金融恐慌の発生 **B**

きっかけ：片岡蔵相(憲政会・第1次若槻内閣)の失言

経過：銀行への取付け騒ぎ発生→銀行の休業あいつく(金融恐慌)

第1次若槻内閣：台湾銀行救済案

→枢密院：これを認める→内閣総辞職

(3)恐慌への対応と鎮静化 **C**

田中義一内閣(立憲政友会)の成立

高橋是清蔵相：モラトリアム(支払猶予)の実施

日銀銀行の非常貸出

恐慌後の経済

5大銀行の台頭……財閥の中心

〈内外政策の転換〉

(1)普通選挙と政府の対応 **A**

1926年 第1回普通選挙 日本共産党活動公然化

1929年 三・一五事件…共産党員大量検挙

→治安維持法改正…最高刑を死刑へ **B**

(2)積極外交の展開 **C**

中国：北伐の開始(蔣介石)→1927年 国民政府樹立(南京)

日本：田中義一内閣…東方会議の開催

満洲軍閥の張作霖支援

山東出兵…日本人居留民の保護

1928年 張作霖爆殺事件…関東軍による陰謀

→田中内閣総辞職

21億9000万円の特別融資を行った。この時に日銀は大量の紙幣を印刷したが、両面印刷が間にあわず、裏が白い紙幣が流通することとなった。これによって金融恐慌は一気に収束を迎えた。なぜ裏の白い紙幣が発行されたのかを考察させ、金融恐慌の混乱ぶりを理解させたい。

内外政策の転換

学習の目標

社会主義勢力の活動とそれへの弾圧政策、また中国大陸における外交政策の転換を多角的に考察する。

解説 **A** 第1回普通選挙と政府の対応

第1回普通選挙で、無産政党はあわせて約4.7%の得票だったが、無産政党が分裂し融合したため、当選者は全体の約1.7%の8名しか出せなかった。しかし、政府は当選者を出したこと自体に衝撃を受け、非合法の共産党員が労働農民党の候補者として活動していたことが明らかになると、共産党の活動を制限する必要を感じ、この年の3月15日に共産党員の大規模検挙を行った(三・一五事件)。また、政治犯、思想犯を取り締まるために特別高等警察を各道府県に設置した。翌年の共産党員の大規模検挙(四・一六事件)によって共産党は壊滅的打撃を受けた。

解説 **B** 治安維持法改正

立憲政友会の田中内閣は、政友本党と憲政会が合同して立憲民政党が成立したこともあり、少数と与であったため、選挙によってこの状況を打開しようとした。結果は、第1党になったものの少数と与であることは変わらず、治安維持法の罰則を強化する案も廃案となっていた。そのため、田中内閣は議会の承認を経ない緊急勅令として通過させ、これを成立させた。これにより、治安維持法における最高刑は死刑となり、本人の意思に関係なく共産党に協力したとしても2年以上の刑に処せられる可能性が出てきた。

読みときの留意点 広州から北上した国民革命軍の進路には列強の利益があり、山東半島やその北の満洲には日本の利益があったため、日本は軍閥を支援することで既得利益を守ろうとした。

解説 **C** 積極外交

幣原外相による協調外交への枢密院の不满から第1次若槻内閣が倒れた後、田中内閣では田中が首相と外相を兼任し、外務次官に森恪、満鉄社長に山本嘉次郎を起用した。この2人はともに立憲政友会と関係の深い三井物産の出身で、中国でビジネスの経験もある対中強硬派であった。田中内閣は国民革命軍が山東へ接近したことをうけ、1927(昭和2)年5月に居留民保護のために山東出兵を決定した。6～7月にかけては東方会議を東京で開催し、満洲の利益を日本自らの力で守ることが確認された。中止されていた北伐が再開されると、1928年4月、第2次山東出兵が行われ、5月には済南で向軍が衝突した(済南事件)。

図説 **3** 張作霖爆殺事件

国民革命軍との戦いに敗れた張作霖をみた関東軍は、軍閥による満洲の間接支配よりも、日本の直接支配を志向するようになった。これにより張作霖は、関東軍の一部によって奉天郊外の満鉄線

1 恐慌の時代 241

歴史資料と中世の展望

絵画から中世社会をさぐる

ねらい

中世の絵巻や屏風などの絵画資料は、社会のあり方を隅々まで表現している。絵巻は右から左へとめくるうちに時間が流れ、物事が変化していくという特性をもち、屏風はある時間の社会の全体像を描く特性をもち、絵巻や屏風に描かれている人や物をみてゆくと、社会のリアルな姿がみえてくるのである。ここでは中世の京都を描いた3点の作品を取り上げた。道をゆくのはどんな人々でどんな姿で何をしているのか、建物はどんな構造で、人はどんな住まい方を、庭はどう使われているのか、それらが時代とともにいかに変化したのかをみてゆこう。山や川などの自然環境や動植物の描かれ方にも注目したい。目をこらし想像力をはたらかせて、絵師が何を描こうとしたのか考えたい。

解説 **1** 「年中行事絵巻」(巻1、「朝銀行幸の図」)

行列のゆく都の大道、それをつめる町中の人びとの視線、住んでいる家のようにも注目しよう。そのうえで、上巻がどうしてこの場面をえがかせたのかを考えたい。「年中行事絵巻」には、ほかにどのような場面がえがかれたのだろうか。

「年中行事絵巻」は保元・平治の乱などの戦乱をへて、世の中がよく治まっていることを示すために描かれた。そのため多くの人々にみせていた。

図1の天皇が上皇のもとむかう行幸の場面でも、人々が行儀よく並んで行列をみている。身なりも整っており、女性や子ども、老人も入り交じり、平和で柔らかな様子が表情からもうかがえるだろう。

古代には京都の大道の両側に貴族や寺院の邸があったが、この時期には堀が築かれ、堀の前に進出して家が建てられた。その町屋は板瓦葺の屋根で、正面に半部の高窓を開き、板戸を立てて戸口に、正面の扉は欄干で、長屋風に軒が連なり、家の戸口には新年を祝う門松が立てられている。巷所といって田畑にされているところもある。

「年中行事絵巻」のほかの場面もみてみよう。

3

図B 「荷荷祭の図」(「年中行事絵巻」巻12)

図C 「蹴鞠に興じる貴族」(「年中行事絵巻」巻3)

80 歴史資料と中世の展望

高校日本史

関連教材

56

57

教師用指導書 授業実践編 付属データ集

日探706準拠



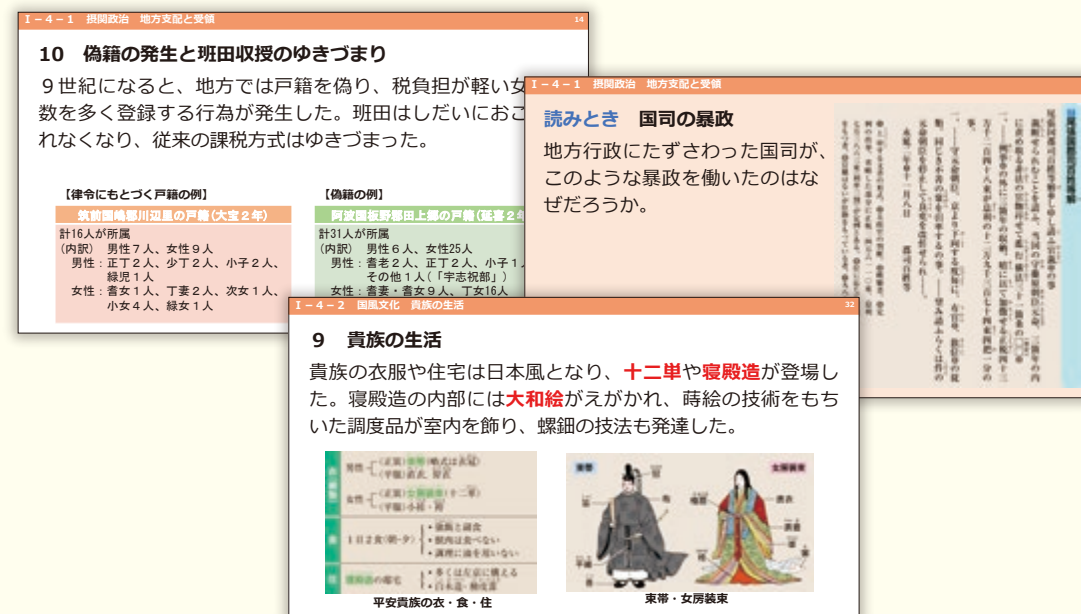
『教師用指導書 授業実践編』にはデータ集DVD-ROMが付属します。
授業準備やテスト問題の作成に、ぜひご活用ください。

付属データ集DVD-ROM 収録予定コンテンツ一覧

教科書データ	①教科書紙面	PDF	教科書全ページの紙面データ
	②教科書本文・注・史料テキスト	Word	本文・注・史料のテキストデータ
	③教科書掲載地図・図表	JPEG	カラー・モノクロ2種の画像データ
	④教科書掲載問い・解答例一覧	Excel	問いと解答例の一覧
	⑤指導書紙面	PDF	指導書全ページの紙面データ
	⑥年間指導計画・評価規準例	Excel	カリキュラムにあわせて加工が可能
教科書準拠教材	⑦授業用スライド	PowerPoint	教科書の章ごとに構成 問いの解答例も収録
	⑧授業用スライド対応ワークシート	Word	スライドに対応したワークシート
	⑨準拠テスト例	Word	小問ごとに観点別評価を明記 テストに対応したルブリック(評価規準表)例付き
	⑩準拠ノート	PDF Word	『高校日本史ノート』の紙面データ
	⑪白地図集	JPEG	プリント用・黒板用2種の画像データ

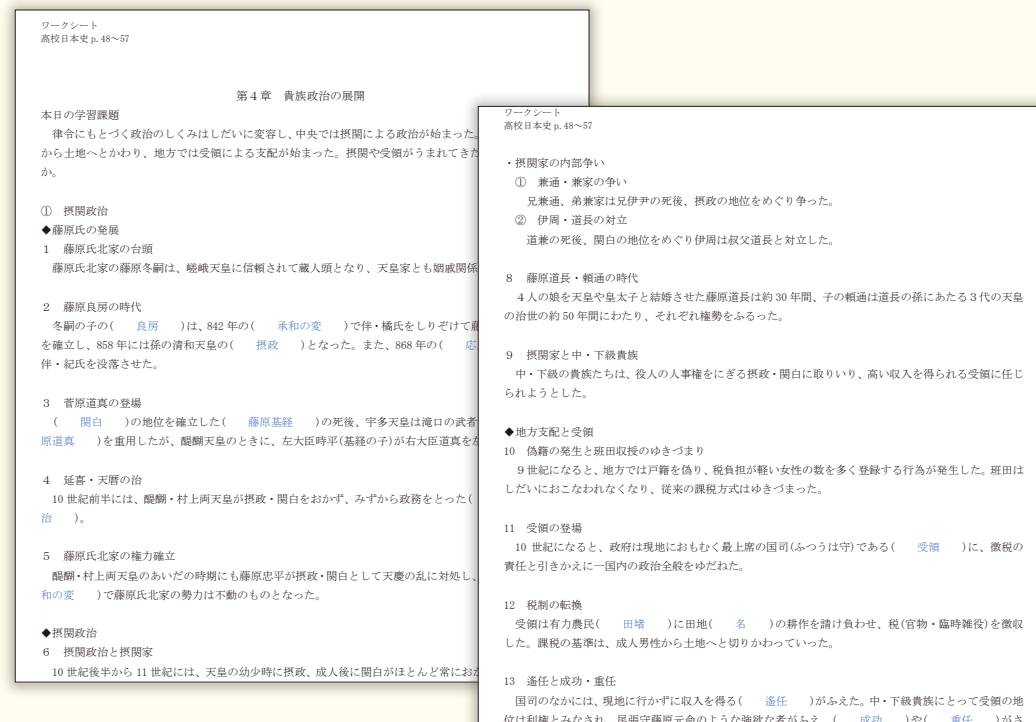
⑦授業用スライド PowerPoint

- 教科書の章ごとに構成されています。
- 学習のポイントを明示し、要点を理解しやすく工夫しています。
- 授業スタイルにあわせて編集が可能です。



⑧授業用スライド対応ワークシート Word

- 授業用スライドに対応したワークシートもご用意しています。



①教科書紙面 PDF ②本文・注・史料テキスト Word ③地図・図表 JPEG

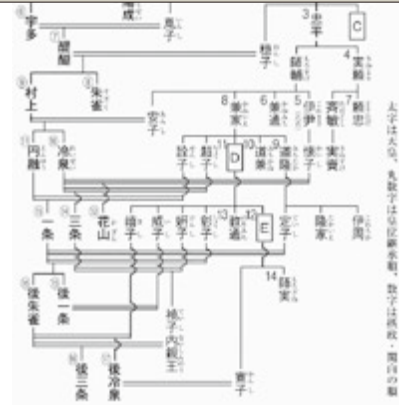
- 教科書の紙面PDF、本文・史料のテキストデータ、地図・図表データを収録しています。
プリントやスライドの作成などにご活用いただけます。



⑨ 準拠テスト例 Word

〈1章ごとにA4判約10枚収録〉

- 教科書の章ごとに構成されています。
- 小問ごとに観点別評価を明記しています。
- さまざまなパターンの出題形式を用意しています。



問1 系図中の空欄A～Eに入る人物をそれぞれ選べ。【知識・技能】

ア 藤原道長 イ 藤原基経 ウ 藤原頼通 エ 藤原時平 オ 藤原良房

問2 A～Eの人物について述べた文章として、正しいものをそれぞれ選べ。なお、解答は複数ある場合がある。【思考・判断・表現】

ア 承和の変で伴健岑・橘逸勢らをしりぞけた。

イ 「此の世をば我が世とぞ思ふ望月の かけたることも無しと思へば」とよんだ。

ウ 阿衡の紛議で宇多天皇に圧力をかけた。

エ 応天門の変で伴・紀両氏を没落させた。

才 菅原道真を大宰府に左遷した。

力 4人の娘を天皇や皇太子と結婚させた。

キ 後一条・後朱雀・後冷泉天皇の摂政・関白となった。

- 準拠テスト例に対応した「ループリック(評価規準表)例」を収録しました。
A・B・Cの具体的な規準を例示しています。

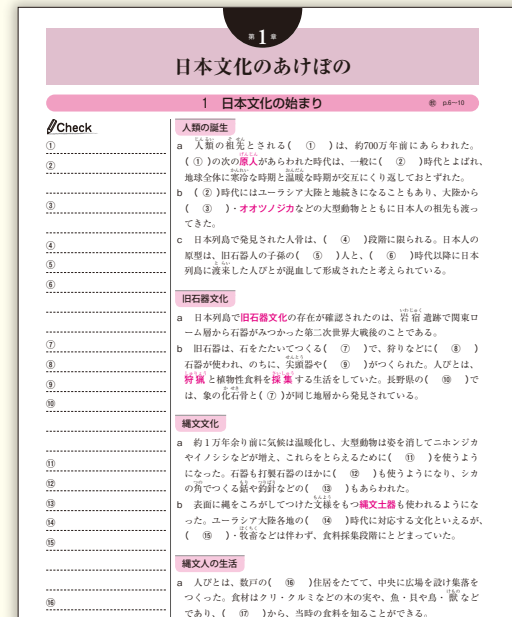
第4章 貴族政治の展開			
	A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する
知識・技能	摂関政治の展開や受領のうまれた背景、国風文化の特徴、荘園の発達と武士団の成長について総合的にとらえて理解しているとともに、複数の資料から情報と適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	摂関政治の展開や受領のうまれた背景、国風文化の特徴、荘園の発達と武士団の成長について理解しているとともに、複数の資料から情報を調べまとめる技能を身につけている。	摂関政治の展開や受領のうまれた背景、国風文化の特徴、荘園の発達と武士団の成長についての理解や、資料から情報を調べまとめる技能が十分に身につけていない。
思考・判断・表現	摂関政治の展開や受領のうまれた背景、国風文化の特徴、荘園の発達と武士団の成長に関する諸事象の意味や意義などを、時期や年代、推称、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目し、資料を通して読み取れる情報から多面的・多角的に考察し、表現している。	摂関政治の展開や受領のうまれた背景、国風文化の特徴、荘園の発達と武士団の成長に関する諸事象について、資料を通して読み取れる情報から多面的・多角的に考察し、表現している。	摂関政治の展開や受領のうまれた背景、国風文化の特徴、荘園の発達と武士団の成長に関する諸事象について、資料の読み取りが不十分で、適切な考察にもとづき表現していない。
主体的な学習態度	摂関政治と国風文化の特徴、武士団の成長について、みずから関心をもちて学習に臨み、振り返りを効果的に活用し、課題を主体的に探究	摂関政治と国風文化の特徴、武士団の成長について、みずから関心をもって学習に臨み、振り返りを活用し、課題を探究しようとしている	摂関政治と国風文化の特徴、武士団の成長について、学習への取組みが不十分で、振り返りを活用できていない。

10 準拠ノート PDF Word

- 『高校日本史ノート』の紙面データは、PDFとWordの2種類を収録しました。

PDF

Word



11 白地図集 JPEG

- プリントなどの作成に便利な白地図データは、プリント用・黒板用の2種類を収録しました。

〈プリント用〉



〈黑板用〉



高校日本史ノート

日探706準拠

B5判・160頁＋解答16頁・2色刷 定価825円(10%税込) ISBN978-4-634-02233-1

使いやすい見開き構成

- 左ページは、重要語句の穴埋めです。教科書本文にそって、歴史の流れと基本的な事項を習得できます。→①
- 右ページは、教科書に掲載されている「読みとき」や、資料を用いた問いに取り組みます。→②

①教科書にそって、内容をわかりやすくまとめています。Check欄に**重要語句**を記入することで、基礎用語の定着をはかります。

第15章 恐慌と第二次世界大戦

1 恐慌の時代(1)

p.228～229

Check

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

金融恐慌

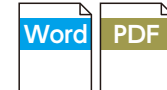
- a 1920年に**戦後恐慌**、1923年には(①)がおこって、日本経済は大きな打撃をうけ慢性的な不況が続いていた。
- b 1927年、議会での片岡直温大蔵大臣の失言をきっかけに、銀行に預金者が殺到する取付け騒ぎがおこり、多くの銀行が休業に追いこまれる事態となった。これを(②)という。
- c この混乱のなかで憲政会の(③)内閣は倒れた。背景には、この内閣の外交姿勢を軟弱と批判する勢力による倒閣運動があった。
- d あとをついだ(④)会の(⑤)内閣は、**高橋是清**大蔵大臣のもとで、3週間の(⑥)(**支払猶予令**)を発した。その間に日本銀行からの非常貸出をおこなって、(②)はしずまった。
- e (②)で多くの中小銀行が倒れ、三井・三菱・住友・安田・第一の**5大銀行**が支配的な地位を占めるようになった。大銀行を中心とする大財閥は、経済界を支配するとともに、政治への発言権を増していった。

内外政策の転換

- a 1926年12月、大正天皇が亡くなり、昭和天皇が即位して、**昭和**と改元された。
- b 田中義一内閣のもとで、1928年、最初の男性普通選挙が実施された。このとき、(⑦)党が公然と活動を始めたので、(⑧)事件とよばれる**共産党員の大検挙**をおこなうとともに、**治安維持法を改正**して、最高刑を死刑・無期懲役とした。
- c 田中義一内閣は、中国に対しては、それまでの協調外交にかわる**積極外交**を展開した。1926年7月、孫文のあとをついだ(⑨)が、国民革命軍をひきいて北方軍閥を倒す(⑩)を開始していた。
- d 田中義一内閣は、**東方会議**を開き、満洲における日本の権益を實力で守る方針を決めた。そして、日本人居留民保護を名目として、3次にわたる(⑪)をおこなった。
- e 日本は、(⑨)と対立していた満洲軍閥の(⑫)を支援して、それまでの満洲における権益をまもろうとした。しかし(⑫)が国民革命軍に敗北すると、(⑬)の一部は満洲を直接支配しようとして、張の乗った列車を奉天郊外で爆破した。これを(⑭)事件という。
- f 当時、この事件の真相は国民には知らされず、(⑮)事件とよばれた。田中義一首相は、この問題の処理をめぐって昭和天皇の**不興**をかい、退陣した。

ご採用特典として

- ①本文テキストデータ (Word)
 - ②解答あり＆解答なしの書籍紙面データ (PDF)
- をご提供いたします。

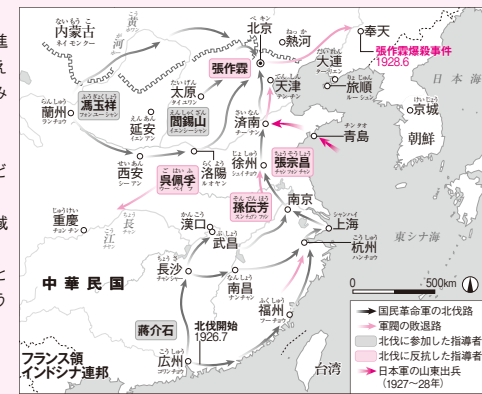


読みとき

北伐と日本

次の図をみて、軍閥の位置や北伐の進路が、日本にどのような影響をあたえたか、①～③にふれながら説明しよう。

- ①北伐を始めた蒋介石の進路は、どこへ向かっているのだろうか。
- ②中国における日本の権益はどの地域にあるのだろうか。
- ③軍閥の張作霖の位置は、日本にとってどのような意味があるのだろうか。



▲北伐とその後の中国

②左ページで習得した知識をもとに、資料を用いた問いに取り組みます。**思考力・表現力**が身につきます。

重要語句は、穴埋めと**赤字**の2段階で整理しているので、視覚的にも重要度を確認できます。

自由に使えるノート欄を設けています。

年間指導計画・評価規準例（※3単位、年間105時間）



学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

使用教科書・副教材

教科書：『高校日本史』
副教材：『高校日本史ノート』
『山川ビジュアル版日本史図録』

節	章	節	配当時			学習内容とねらい
			月	授業 時数	授業 時	
第1部 原始・古代	第1章 日本文化のあけぼの	1 文化の始まり	4月	4	1 2	①氷河期にアジア大陸から現在の日本列島に人類が渡ってきて、その後渡来した人びとなどと混血をくり返し日本人が形成されたことを考察する。 ②遺跡・遺物など考古学上の知見から、旧石器文化から縄文文化の時代の人びとの暮らしを考察する。
		2 農耕の開始			3 4	①中国大陸から農耕とそれを支える文化要素が渡来し、日本に本格的な農耕文化が形成されたことを考察する。 ②農耕の発展によって私有財産と身分の差が生まれ、集落間の対立抗争からより広域を支配する権力が形成されたことを、遺跡・遺物の発掘や中国の文献から考察する。 ③狩猟社会から農耕社会への変化に着目して、時代を通観する問いを表現する。
	歴史資料と 原始・古代の展望	①古代社会と海外との交流		2	5	①中国の歴史書の記事を通して読み取れる情報をもとに、日本列島の倭の小国やヤマト政権(倭国)と中国・朝鮮半島諸国との交流について、多面的・多角的に考察する。 ②古代社会の東アジアとの交流は、ヤマト政権や律令国家の展開に向けてどのように変化していったか、仮説を表現して展望する。
		②木簡から古代国家をさぐる			6	①遺跡から出土した木簡の記載内容をもとに、文書主義を基本とする律令制下での中央・地方と関係や役所の動きについて、多面的・多角的に考察する。 ②古代の中央・地方をめぐる租税の物流や地方における漢字文化の広がりについて、仮説を表現して展望する。
	第2章 古墳とヤマト政権	1 古墳文化の展開		4	7 8	①ヤマト政権の成立と発展、中国大陸・朝鮮半島との関係について、各種金石文や文献から考察する。 ②古墳文化の特徴を前期・中期・後期のそれぞれについて考察するとともに、その時代の様子を古墳文化の様々な要素から考察する。 ③古墳時代の人びとの生活や信仰、渡来人のもたらした文化について考察する。
		2 飛鳥の朝廷			9 10	①ヤマト政権の権力争いや大陸文化との関係の変化に着目し、推古朝の政治や外交について考察する。 ②飛鳥文化には中国大陸・朝鮮半島との交流の影響がみられることを理解する。
	第3章 律令国家の形成	1 律令国家への道	5月	6	11 12	①大化の改新や律令国家が成立するまでの政治過程について、東アジアの変動を踏まえて考察する。 ②律令国家の仕組みや、律令制が日本の歴史に与えた影響について理解する。
		2 平城京の時代			13 14	①日本と東アジアとの関係について、使節や留学生・僧の往来に着目して考察する。 ②奈良時代の政治の流れを理解し、その背景について考察する。
		3 律令国家の文化			15	①律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ②律令国家の繁栄を背景に成立した天平文化について、国家鎮護を目的とした国家仏教や唐の影響を強くうけた美術や絵画の特色に着目して考察する。
		4 律令国家の変容			16	①桓武・嵯峨天皇による律令制度の建て直しと、その後の政治制度の変質について考察する。 ②密教の広まりや、神仏習合などの仏教の日本化が進んだこと、さらに弘仁・貞観文化の特色について考察する。
	第4章 貴族政治の展開	1 摂関政治	4	4	17	①9～10世紀にかけての藤原北家の勢力拡大や、律令制支配の衰退と地方支配の仕組みの変質が中世的な世界を生み出していくことについて考察する。 ②東アジアの変動が、日本の対外関係に与えた影響を考察する。
		2 国風文化			18	①国風文化の成立について、東アジア社会の変動と関連させて考察するとともに、国風文化が日本の伝統文化に与えた影響について考察する。 ②浄土信仰という仏教の新しい動きについて、その社会的な背景とともに考察する。
		3 荘園の発達と武士団の成長			19 20	①寄進地系荘園の成立など土地制度が変化したことについて考察する。 ②棟梁を中心とした大武士団が成立していく過程や、次第に政治的な力を持つようになったことについて考察する。
第2部 中世	第5章 院政と武士の躍進	1 院政の始まり	6月	3	21	①外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ②院政がどのように成立し、展開したのか、古代から中世への歴史の転換と関連づけて考察する。
		2 院政と平氏政権			22 23	①院の信任を得て台頭した平氏が、保元・平治の乱を通じて勢力を拡大し、政権を獲得した過程を考察し、また、その政権基盤や特色などについて考察する。 ②院政期に、どのような文化が形成され、広まったかについて考察する。 ③古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。
	歴史資料と中世の展望	絵画から中世社会をさぐる		2	24 25	①政治や文化の中心であった中世の京都を描いた絵画作品から、情報を収集して読み取る技能を身につける。 ②資料から適切に読み取った情報をもとに、中世の特色についての仮説を表現して展望する。

※小社HPに全体のExcelファイルを用意しています。

科目全体の評価の観点(指導要領の目標)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の規準		
知識・技能 【評価の方法】 定期考査／提出課題／発問評価	思考・判断・表現 【評価の方法】 定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	主体的に学習に取り組む態度 【評価の方法】 提出課題／授業態度／発表・レポート提出
日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変化を、自然環境の変化や大陸からの影響に着目して理解している。	遺物や遺構など考古学上の知見から、旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。	黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化・縄文文化の特色を明らかにしようとしている。
水稻耕作や金属器の伝来が日本列島の社会に与えた影響を理解し、発掘調査成果から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけている。	「クニ」の形成から邪馬台国などの小国の連合について、遺跡・遺物や「魏志」倭人伝などの文献資料から多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。	日本列島における農耕社会の特色とともに、国家形成につながる社会の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。
中国の歴史書の記事をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけている。	中国の歴史書の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	日本列島における小国およびヤマト政権と中国・朝鮮半島などとの交流について考察することを通じて、古代の対外交流の実態を明らかにしようとしている。
木簡の記録をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけ、歴史資料や遺構の保存・保全の努力が図られていることを理解している。	木簡の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	木簡を資料として活用し、律令国家における漢字文化の広がりについて主体的に考察しようとしている。
中国大陸・朝鮮半島との関係に着目し、渡来人のもたらしたものが現在の日本文化の基層にあることを理解している。	諸資料を収集して分析し、ヤマト政権の発展や古墳文化の特色について、多面的・多角的に考察し、表現している。	中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成と連合について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。
推古朝の政治や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。	仏教の受容や遣隋使・遣唐使の派遣などの大陸との交流について、諸資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。	中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、推古朝の政治や飛鳥文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。
隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響や、律令制の形成を中心に大化の改新以降の政治過程を理解している。	律令体制について、政治や地方の動向なども踏まえて多角的に考察し、表現している。	隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。
平城京における律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。	文献資料をもとに、諸勢力の対立と土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。	平城京における政治史の流れに着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。
隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色を理解している。	盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。	隋・唐などの中国王朝から受容した文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。
平安初期の政治とその後の律令体制の変容について、蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて理解している。	桓武天皇や嵯峨天皇の政策に着目して、律令制の変容について考察し、表現している。	東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。
藤原北家の発展過程や地方支配の変化を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。	地方支配の変化に着目し、奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特質とその後の展開について考察し、根拠を示して表現している。	唐の衰退による東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。
それまで吸収してきた中国文化をふまえて国風文化が形成されたことを理解する。浄土信仰が広まった背景について、諸資料から当時の人々の心のありようを読み取る技能を身につけている。	国風文化の形成について、国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえて考察し、かなの成立などが、後の日本文化におよぼした影響について考察し、表現している。	摂関時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。
武士団の仕組みや武士の反乱、成長などに着目して、律令体制や地方社会の変容を理解している。	土地制度の変化について、史料を読み取りながら考察し、根拠を示して表現している。	国司や地方支配の在り方の変化、武士の出現など、地方の諸勢力の成長が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。
貴族政治や土地支配の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。	武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。	中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。
院政期における武士の影響力の拡大や平氏政権の展開、文化が庶民や地方に広まったことなどについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武家政権の成立について理解している。	武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。	古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。
3つの絵画を比較して、様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、歴史資料の保存・保全の努力が図られていることを理解している。	複数の絵画資料に描かれている中世の都大路の様子を比較した結果について、時代を通観する問いを踏まえて考察し、仮説を表現している。	中世の京都を描いた絵画資料から得られる情報をもとに、中世社会の特色について主体的に課題を見出そうとしている。

指導者用デジタル教科書(教材) 学習者用デジタル教科書

日探705準拠

日探706準拠

- デジタル教科書は「指導者用」「学習者用」とともに **「インストール版」「クラウド版」** をご用意しています。



※画像は『詳説日本史』のサンプルです。

サンプル版は
こちら！

指導者用



学習者用

※サンプルは『詳説世界史』より抜粋

★ご注文の前にご確認ください★

「指導者用デジタル教科書(教材)」と「教師用指導書 授業実践編 付属データ集」は、それぞれ別の商品のため、混同されないようにご注意ください。

- 「指導者用デジタル教科書(教材)」は、教科書の電子書籍版に教材アプリの機能がついた商品です。

- 「教師用指導書 授業実践編 付属データ集」は紙面PDFや図版データ、スライド、準拠テスト例などが収録されたコンテンツ集です。

→p.28 →p.58

教師用指導書 授業実践編付属データ集DVD-ROM

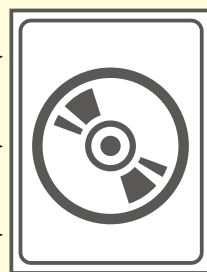
教科書紙面PDF

教科書図版データ

JPEG

教科書テキストデータ

Word



指導書紙面PDF

授業用スライド

PowerPoint

準拠テスト例

Word

評価規準例

Excel

「指導者用デジタル教科書(教材)」と 「学習者用デジタル教科書」の違い

- ビューアの基本機能（ズーム表示や書き込み等）は「指導者用」「学習者用」共通です。
- 「指導者用」には、授業に便利な独自のアプリ機能がつきます。

「指導者用デジタル教科書(教材)」 「学習者用デジタル教科書」 共通機能

	検索	用語を入力して掲載ページを検索・移動します。		道具	タイマー、ふせん、ポインター、リンク貼り付けなどが使用できます。
	ペン マーカー	色、透明度、太さの設定が変更できます。		記録	書き込みをした内容の保存、読み込みができます。
	図形 スタンプ	図形は色、透明度、太さが選べます。スタンプは初期登録の素材の他、画像データを読み込んで貼ることができます。		表示設定	全画面表示への切替えや、紙面上のクリックポイントの表示などの設定ができます。
	消す	消しゴムでの部分消去や全消去、「元に戻す/やり直す」操作ができます。		ズーム	紙面の拡大表示ができます。
	リンク	教科書紙面の2次元コードは動画や文書のアイコンとなっており、動画視聴Webサイトや関連コンテンツへとリンクします。※オンライン環境が必要です。			

「指導者用デジタル教科書(教材)」 独自機能

●地図・グラフアプリ

アプリアイコン が付いている地図・グラフは、凡例（領域・矢印など）やデータ系列ごとに表示/非表示の切替えができます。必要に応じて、特に説明したい要素だけを表示することができます。



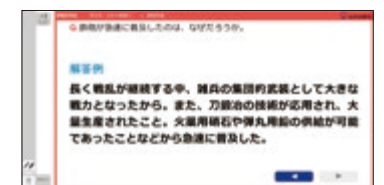
●めくり紙アプリ

図版の特定の文字を隠す「めくり紙」が設定されているアプリです。めくり紙の部分をクリック/タッチすると隠れている文字が表示されます。「全表示」ボタンで、すべてのめくり紙を同時に外すことができます。



●Q&Aアプリ

デジタル紙面の発問の部分をクリック/タッチすることで、問いかけに対する解答例のスライドを表示することができます。（問いかけのスライド・解答例のスライドをボタンで切り替えることが可能です）



指導者用デジタル教科書(教材)／ 学習者用デジタル教科書

「インストール版」と「クラウド版」の違い

- 「インストール版」はDVDを納品します。各端末にインストールしてご利用ください。
※リンク先のサイトに遷移する際は、オンライン環境が必要となります。
- 「クラウド版」は各端末のブラウザでクラウドサーバーにアクセスしてオンライン環境にてご利用ください。

[インストール版]

【同一の学校建物内の指導者用端末に限りインストール数の制限なし】

- (インストール方法①) 各利用端末に直接インストールしてご利用ください。
※端末インストール(スタンドアロン)はWindows PCのみの対応となります。
- (インストール方法②) DVD-ROMに収録されているデジタル教科書のデータを学校・教育委員会等に設置されているWebサーバーにアップロードして各利用端末からアクセスしてご利用ください。※ファイルサーバーは動作保障環境の対象外です。

[クラウド版]

【校内フリーライセンス】

- 小社からライセンス証・学校管理者向けスタートガイドをお送りします。スタートガイドに沿って初期設定の作業をしていただくことで、完了後、ライセンス証記載のご利用開始日よりご利用いただけます。
- オンライン環境にて、各利用者端末から当社指定のクラウドサーバーへアクセスしてご利用ください。

指導者用／学習者用 デジタル教科書 商品概要

	指導者用デジタル教科書(教材)	学習者用デジタル教科書
税込み価格 (本体価格) ※インストール版、 クラウド版共通	①教師用指導書授業実践編 付属データ集DVD-ROM付 1冊 ②教師用指導書研究編 1冊 ③指導者用デジタル教科書 3点セット価格 定価55,000円(10%税込) (本体50,000円)	1人につき 定価1,100円(10%税込) (本体1,000円)
インストール版利用期間	教科書ご利用期間内(最長4年間)	教科書ご利用期間内(最長3年間)
クラウド版利用期間	教科書ご利用期間内(最長4年間)	教科書ご利用期間内(最長3年間)
ライセンス形態	学校内フリーライセンス ご購入いただくことで、学校内の指導者用端末で何台でもご利用が可能です。ライセンス有効期間は4年間となります。	1ユーザー1ライセンス 必要な人数分のライセンスをご購入いただき、学習者用端末でご利用ください。紙の教科書のご利用期間中はライセンスが有効となります。
利用者端末 動作環境	動作保証環境 ●iPad OS [®] ブラウザ: Safari ●Chrome OS [®] ブラウザ: Google Chrome ●Windows 10/11 ブラウザ: Microsoft Edge・Google Chrome ※iPad OS・Chrome OSはクラウド版、または学校内Webサーバー環境のみご利用可能。インストール版(DVD版)の端末インストールはご利用いただけません。	
基盤システム	デジタル教科書の提供・表示ビューアの基盤となるシステムとして「みらいスクールプラットフォーム」(https://www.mirai-school.jp/platform/)を採用しています。 専用のビューアはMicrosoft Edge、Google Chrome等のブラウザで動作します。	

※紙の教科書をご採用いただいた場合に限り、対応する「指導者用デジタル教科書」「学習者用デジタル教科書」のライセンスをご購入いただくことが可能です。

※本資料のデジタル教科書の画面イメージ・記載内容は開発中の情報を含むため、製品版において変更になる場合があります。

約13,000点の地歴コンテンツが定額制で使い放題！

Webの

社 会 科 準 備 室

山川&二宮ICTライブラリ

山川&二宮ICTライブラリは、地理・歴史の教育コンテンツを定額制でご利用できるWebサービスです。

図表
年表

地図

グラフ
統計



スライド

動画

プリント

●簡単検索！

フリーワード検索はもちろん、科目・時代・分野・地域やコンテンツの種類にチェックを入れるだけで簡単に検索・絞り込みができます。また、2022年5月より〈書籍別検索〉機能を追加。関連するコンテンツのリンク機能も充実し、さらに便利になります。

●コンテンツ解説文

画像や動画には解説文がついています。生徒の興味や関心を引き出すための導入や、プリント作成時の参考文献として活用できます。

●マルチデバイス対応

ひとつのアカウントで、パソコン・タブレット・スマートフォンなど様々なデバイスからご利用になれます。

ご利用中の先生の声

これまで190校を超える学校様にご採用いただきました！

- ・Google動画や自然地理アニメなど活用しています。(東京都私立高校)
- ・指導書を個別に購入するよりもコストパフォーマンスがよく、価格相応と感じます。(静岡県公立高校)
- ・授業準備の時間が短縮されました。マルチデバイスは便利です。(東京都私立高校)
- ・コンテンツがクラウドにあるので、ROMからダウンロード等の手間がなく、大変効率的です。(大阪府私立高校)

まずは無料トライアルを！

法人向け定額制コースをご検討の学校様には、ほぼすべてのコンテンツを2週間お使いいただける〈無料トライアルバック〉をご用意しています。詳しくはこちらのサービスサイトをご覧ください。▼

料金プラン

法人向け定額制コース **77,000**円/年(税込)

- ・地理歴史・公民科にご在籍の先生でしたら何名様でもご利用できます。
- ・同一敷地内の中高一貫校様は、中学校・高等学校ともご利用になれます。

個人向け定額制コース **1,320**円/月(税込)

- ・クレジットカード決済のみのお取り扱いとなります。
- ・領収書の発行も可能です。

サービスのお申し込み/
詳しいご説明はこちらから

<https://ywl.jp/service>



ICTライブラリ サービスサイト 検索

日本史探究 著作者一覧

(2023年3月現在・五十音順)



詳説日本史 日探705

詳しい内容と豊富な史資料
信頼の教科書

- ★各時代・各分野をバランスよく記述、充実した内容。
- ★探究活動に取り組みやすい大きな図版、豊富な史資料。
- ★時代の特色をつかむ多様な問いかけ。



高校日本史 日探706

豊富な材料で楽しく学べる
生徒が読んでわかる教科書

- ★要点をおさえた、わかりやすい教科書。
- ★興味・関心を高める工夫と、豊富な史資料。

會田 康範 (あいだやすのり)

学習院高等科教諭

日本史教育

- 詳説日本史
- 高校日本史



大津 透 (おおつとおる)

東京大学教授

日本古代史

- 詳説日本史
- 高校日本史



桜井 英治 (さくらいえいじ)

東京大学教授

日本中世史

- 詳説日本史
- 高校日本史
- 中学歴史



老川 慶喜 (おいかわよしのぶ)

立教大学名誉教授

日本近代・現代史

- 詳説日本史
- 高校日本史
- 歴史総合707



五味 文彦 (ごみふみひこ)

東京大学名誉教授

日本中世史

- 詳説日本史
- 高校日本史



佐藤 信 (さとうまこと)

東京大学名誉教授

日本古代史

- 詳説日本史
- 高校日本史



大熊 俊之 (おおくまとしゆき)

埼玉県立不動岡高等学校教諭

日本史教育

- 高校日本史



早乙女 雅博 (さおとめまさひろ)

東京大学名誉教授

考古学

- 詳説日本史
- 高校日本史



設楽 博己 (したらひろみ)

東京大学名誉教授

考古学

- 詳説日本史
- 高校日本史



太田尾 智之 (おおたおともゆき)

東京都立国立高等学校教諭

日本史教育

- 詳説日本史



坂上 康俊 (さかうえやすとし)

九州大学名誉教授

日本古代史

- 詳説日本史
- 高校日本史



鈴木 淳 (すずきじゅん)

東京大学教授

日本近代史

- 詳説日本史
- 高校日本史
- 歴史総合707



高埜 利彦 (たかのとしひこ)

学習院大学名誉教授

日本近世史

- 詳説日本史
- 高校日本史



高橋 典幸 (たかはしのりゆき)

東京大学教授

日本中世史

- 詳説日本史
- 高校日本史



多田 万里子 (ただまりこ)

埼玉県立熊谷西高等学校教諭

日本史教育

- 高校日本史



豊田 基裕 (とよだもとひろ)

東京都立大江戸高等学校教諭

日本史教育

- 高校日本史



沼尻 晃伸 (ぬまじりあきのぶ)

立教大学教授

日本近代・現代史

- 詳説日本史
- 高校日本史



野崎 雅秀 (のざきまさひで)

東京大学教育学部附属中等教育学校教諭

日本史教育

- 詳説日本史
- 歴史総合707



牧原 成征 (まきはらしげゆき)

東京大学教授

日本近世史

- 詳説日本史
- 高校日本史
- 歴史総合707



三枝 暁子 (みえだあきこ)

東京大学准教授

日本中世史

- 詳説日本史
- 高校日本史



三谷 芳幸 (みたによしゆき)

筑波大学准教授

日本古代史

- 詳説日本史
- 高校日本史



村 和明 (むらかずあき)

東京大学准教授

日本近世史

- 詳説日本史
- 高校日本史



山口 輝臣 (やまぐちてるおみ)

東京大学教授

日本近代史

- 詳説日本史
- 高校日本史



湯川 文彦 (ゆかわふみひこ)

お茶の水女子大学准教授

日本近代史

- 詳説日本史
- 高校日本史



吉田 伸之 (よしだのぶゆき)

東京大学名誉教授

日本近世史

- 詳説日本史
- 高校日本史



渡邊 宏明 (わたなべひろあき)

海城中学高等学校教諭

日本史教育、日本近代史

- 詳説日本史
- 高校日本史
- 歴史総合709
- 中学歴史



山川出版社ホームページ 収録データ 一覧

下記データは小社ホームページにアクセスしてご覧ください。

Topic!

● 観点別評価集計表 Excel

観点別評価の集計に便利なExcelファイルをご用意しました。
学校の先生が実際に使用しているシートです。
ホームページよりダウンロードしてご活用ください！



● 日本史探究教科書の紹介ページ

- ・教科書の特徴紹介
- ・教科書ダイジェスト版 PDF
- ・内容解説資料 PDF
- ・年間指導計画作成資料 Excel
- ・教科書紹介動画



● デジタル教科書

- ・商品概要
- ・サンプル版



● 教科書の訂正内容のお知らせ



● 山川&二宮ICTライブラリ サービスサイト



日本史探究の授業展開案は『歴史PRESS』の特集号もご参照ください！

『日本史探究・世界史探究』特集号

- ・歴史PRESS No. 7 新課程教科書 授業展開案 など
- ・歴史PRESS No. 8 新課程教科書 授業展開案 など

こちらから
ご覧ください



山川出版社

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-13
TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469

<https://www.yamakawa.co.jp/>